

アンケートの回答

社団法人静岡県計量協会
環境計量証明部会
技術グループ第3委員会



基礎知識

Q.

測定条件の季節により影響及び場所等による条件を具体的に教えてください。

A.

夏にはセミや虫等で騒音に対してなんらかの影響がでると思うが、具体的となると難しい。



基礎知識

Q.

測定点数を絞り込む必要が生じた場合どのように選定するか。

A1.

苦情であれば民家と発生源を結んだ敷地境界線上

A2.

民家に近い敷地境界線上でいいと思う。

A3.

目的に応じて問題となる発生源の近辺や民家近辺を優先して選定する。



基礎知識

Q.

チャートでレベルを読む場合、垂直に近い記録の指示値の決定基準は？

A1.

交差している部分の中心でいいと思う。

A2.

特に基準はない。罫線との交点で読み取る。



基礎知識

Q.

騒音予測で回折減衰が2回以上ある場合の対処法

A.

騒音振動対策ハンドブックにそのような内容があったと思うので、参考にしてもらいたい。



基礎知識

Q.
ホンとdBの簡単な説明法を知りたい。

A.



現地測定

Q.

現場により測定場所を設定するポイントを具体的に教えてください。

A1.

苦情であれば民家と発生源を結んだ敷地境界線上

A2.

敷地境界線上で、音源に近い場所や民家に近い場所で行えばいいと思う。

A3.

目的に応じて問題となる発生源の近辺や民家近辺を優先して選定する。



現地測定

Q.

暗騒音が著しい場合の計測(隣接工場等)

A1.

発生源を測定し、距離減衰から推定する

A2.

隣接工場が停止する日を待って測定したことがある。

A3.

報告書の考察で暗騒音の影響を示して対処する。または工場停止時の測定(暗騒音)を行い比較する、測定日を変更する等。



現地測定

Q.

天候による欠測時の処理

A1.

うちの会社では再測定しているが、とっていない時間だけとって
もいいと思う。

A2.

欠測した時間帯のみ後日測定



現地測定

Q.

境界線上に防音壁等がある場合、壁から離れて測定を行うのと壁の上方で測定を行うのはどちらが正しいでしょうか

A1.

壁の上が正しいと思う。

A2.

「壁の上が正しいと思う」でいいと思う。

A3.

騒音測定マニュアルでは壁の30cm上とあるが、目的に応じて場所を決めるのが望ましい。



現地測定

Q.

一般的に敷地境界に測定点を設ける場合、音源に近い位置とするか、民家に近い位置とするか。

A1.

民家と発生源を結んだ敷地境界線上

A2.

できることなら両方でやるべきなのではないかと思う。

A3.

目的(苦情、ISO14001)に応じて使い分ける



現地測定

Q.

天候、温湿度、風向風速の記録は必要か。またその影響の表現方法はあるか

A1.

記録は必要。騒音計の使用条件への影響、風による暗騒音レベルの増加が考えられる。(5m/s以上の風速は測定できない)

A2.

うちの会社では計量証明の測定条件に記入をしている。

A3.

記録はすべき。



現地測定

Q.

振動計を置く最適な位置

A1.

できるだけ道路のアスファルトの上やコンクリートの上で測定するようにしている。

A2.

基本は踏み固められた土の上もしくはコンクリートやアスファルトの上で水平な場所。樹木のそばは避ける



現地測定

Q.

発生源が明らかに他社の場合客先には他社の影響であることを説明して納得してもらっているが、皆さんはどのように対処しているか

A1.

発生源を測定し、距離減衰から推定し、影響が少ないことを説明している。

A2.

自社の発生源の測定値と距離減衰や透過損失などから求めた予測値を提出して納得してもらえばいいと思う。

A3.

報告書の考察で暗騒音の影響を示して対処する。または工場停止時の測定(暗騒音)を行い比較する、測定日を変更する等。



現地測定

Q.

周波数分析結果をA特性補正する方法

A1.

JIS C 1502の付表1に記載されている基準レスポンスで計算して求めればよいと思う。

A2.

周波数レスポンスで補正する。



現地測定

Q.

地盤が緩い場所での対処法(どの程度の範囲を踏み固めるか
また鉄板等を置くか)

A1.

円形に数十cm程度堅くなるまで踏み固めているが、無理な場合は鉄板等の硬いものを置いている。



現地測定

Q.

敷地境界と建物の間が1mしかなく段差がある時の測定ポイントはどこにしたら良いか

A1.

場所を変える。もしくは1m以内の場所に置くしかないと思う。

A2.

そのような場所はなるべく避けるのが望ましい。



現地測定

Q.

工場騒音振動測定時の対象音源はどこまでか？測定機関によって考え方が違う？

A1.

基本的に工場から発生する音が対象。(フォークリフト、トラックも含む)

A2.

フォークリフトの場合、あまり来ない地点では時間をずらして測定しなおす場合がある。



現地測定

Q.

振動測定で振動源がわからないときどのように特定したらよいか

A1.

可能性のある施設の稼働状況を確認してみる。(連動するかなど)

A2.

稼働している施設すべてを確認するしかないと思う。

A3.

騒音との連動の確認等



現地測定

Q.

敷地境界上に壁等障害物があってマイクやピックアップをおけない場合どうすべきか

A1.

振動の場合、工場側で確認し、基準以内であればOKとしている。騒音の場合は壁の内側、外側を測定し計算上で敷地境界線のレベルを推定する。

A2.

振動は敷地境界の内側に置いている。騒音は「壁の内側、外側を測定し計算上で敷地境界線のレベルを推定する」でいいと思う。

A3.

境界線近辺の工場内側。周辺の状況次第か



現地測定

Q.

工場の稼働負荷が1日に変動する場合、ピークをねらって測定すべきであるか。

A1.

苦情の場合は、苦情申立人の意見を聞く。ISO14001の維持管理測定の場合は、できるだけ同じ条件で行う。

A2.

できるのなら、長時間計って判断すべきではないかと思う。

A3.

すべき



解析

Q.

解析の基礎を教えてください

A1.

測定内容によって違うので、本などで調べるしかないと思う。



解析

Q.

暗騒音が著しい場合の除外の程度、聞こえる範囲

A1.

暗騒音と実測値の差が3dB以内のときは補正できないはずなので、著しい場合は難しいと思う。

A2.

報告書の考察で暗騒音の影響を示して対処する。または工場停止時の測定(暗騒音)を行い比較する、測定日を変更する等。



解析

Q.

工場騒音等でデータの拾い出しを行う際、簡単でミスが少ない方法はないでしょうか。

A1.

回数をこなして慣れるしかないと思う。

A2.

目で地道に読む意外に思いつきません



解析

Q.

騒音で午前午後2回測定し、その値が片方基準値を超過したが
平均値は基準値内の場合の判断

A1.

基準値を超過すればNG

A2.

「基準値を超過すればNG」でいいと思う。

A3.

片方は基準値内、もう片方は基準値超過と判断する。平均は
とらない。



解析

Q.

振動レベルデータ管理ソフト(VM-53PA1)で求めたL10は計量
証明書に使用できるか

A1.

考え方次第だが個人的にはよいと思う。各社の事業規定で決められた通りにする。

A2.

できない？

A3.

VM53PA1を使用してデータを作成したことがあるので、いいのではないかと思う。



解析

Q.

衝撃、間欠騒音振動として処理する判断基準は？増加レベルの目安はあるか

A1.

5dB以上なら衝撃、間欠騒音振動として処理できると思う。



解析

Q.

低周波音の周波数解析をやる場合音源の測定ができていないか判断しにくい。どうしたらよいか

A1.

風の影響を考慮する。また、可能であれば施設を稼働、停止してもらい暗騒音の影響を把握する。

A2.

できる限り風のない日に行く。



解析

Q.

チャート読み取りでペンの太さの影響をどう処理するか

A1.

太くなったペンは使用しない。又はキャリブレーションの設定位置

A2.

うちの会社では基本的に細いペンのみを使用するようにしているので、影響を感じたことは少ない。

A3.

太いペンの場合は線の中心で読み取る。なるべく使用しない。



解析

Q.

暗騒音補正をした補正值を計量証明してよいか

A1.

いいと思うが、計量証明したことはない

A2.

いいと思う。

A3.

基本的に実測定で示された数値を計量証明値とする？



精度管理

Q.

他社の精度管理をどのようにしているか？参考にさせてください。頻度も

A1.

1年に1回の定期点検及び検定

A2.

「1年に1回の定期点検及び検定」でいいと思う。

A3.

年1回の事業規定検査や検定等



精度管理

Q.

メーカー検査の利用状況

A1.

うちの会社では今のところ利用したことはない。

A2.

周波数分析器や低周波騒音計は3年に一度行っている。



精度管理

Q.

音響校正器の検査は3年に一回と決めているがその程度でよいか

A1.

1年に1回の定期点検は必要？

A2.

「1年に1回の定期点検は必要」でいいと思う。

A3.

よいと思う。各社で基準を決めておくのが望ましい。



精度管理

Q.
音響校正器等検定対象外の機器の校正方法の実施例を知りたい

A1.
製造会社に依頼すればいいと思う。

A2.
音響校正器はJQAの検定時に申し込むことが可能、その他の機器はメーカーで対応できる。



精度管理

Q.

振動計のCalは騒音計のようなピストンホンがないが方法はあるか

A1.

わからないが、ないのではないか。

A2.

ない



精度管理

Q.

現場で簡単に振動計の動作チェックをやる方法はあるか

A1.

近くで足踏みしたりして振動を与えればよいと思う。

A2.

別の振動計と数値を比較、または足で地面を震動させて挙動を確認する。



その他

Q.
個人からの依頼リスクが大きい

A1.
あまりにもリスクが大きい場合は断る。



その他

Q.

地盤によっては発生源がなくても高い値を示すときがあるが、測定値はそのまま記入し考察で対応すべきか

A1.

実際に同じようなケースがあり、そのように対処した。

A2.

測定値は測定値として実際の数値を示すべき。計量証明書のみでは詳細な状況がわかりにくいので詳細な考察を示した報告書を作成するのが望ましいと考える



その他

Q.

振動測定時に発生源を特定できないことがある。騒音なら耳で聞くなりして確認できるのですが…

A1.

状況がわからないが、おそらく特定は難しいのではないかと思います。



その他

Q.

FFT分析の基本的な考え方(窓関数やオーバーラップ率の設定等)を教えてください

A1.

すみません。わかりません。



その他

Q.

防音量の測定において音源スピーカーは測定対象へ水平に向けていいか。壁から何m離せばいいか

A1.

すみません。わかりません。



その他

Q.
使用している機器のメーカー名

A1.
このデータはあるそうです。